

令和七年度第二十三回

斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール選考結果について(お知らせ)

令和七年度第二十三回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクールには、山形県内はもとより県外・海外からも多数応募があり、小学校四十三校(団体)・千五百首、中学校四十六校(団体)・二千五百四十一首、高等学校四十六校(団体)・二千八百九十六首、合計百三十五校(団体)・六千九百三十七首の作品が寄せられました。その全応募作品を対象に、第一次選考(入選二百首)、第二次選考(優秀賞五十四首)、さらにこのたび(二月十四日)、選考委員の田村元・布宮雅昭・結城千賀子の三氏歌人による最終選考会が開かれ、小・中・高校の各部門二首・計六首の最優秀賞が左記のとおり決定いたしました。

なお、最優秀賞作品・優秀賞作品を含む全入選作品を収めた「令和七年度第二十三回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品集」は、本年三月十五日付で発行し、応募学校(団体)等に配布いたします。

主催 山形県・山市・山市教育委員会・公益財団法人斎藤茂吉記念館
お問合せ先 公益財団法人斎藤茂吉記念館 〒999-3101 山形県山市北町字弁天1421

TEL 023-672-7227

Fax 023-672-2626

令和七年度第二十三回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール最優秀賞作品(全六首)

【小学校の部】

オペレッタ会場響いたぼくたちの全力の歌ふわつと残る

郡上市立大和小学校

五年 河合 琉伊(かわあいるい)

ひゅうひゅうと風になびいて柿のれんすきまにのぞく夕陽の振り子

山市立南小学校

五年 冨塚 登翔(とみつかとわ)

【中学校の部】

年またぎ空気がピリツとなる不思議空も背すじが伸びたのだろうか

学習院女子中等科

一年 梅澤 愛乃(うめざわあいの)

河北町立河北中学校

静寂に溶けて広がる靴の音黒く輝くピアノに向かつて

二年 茂木 乙葉(もきおとほ)

【高等学校の部】

弓を引き弦の音響き空を裂く解き放たれる私の心

山形県立東桜学館高等学校

一年 奥山 未唯(おくやまみい)

山形県立山辺高等学校

ありがとう患者さんの一言でそっと包まれたまた歩き出す

二年 沼尻 樹季(ぬまじりいつき)

令和七年度第二十三回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール「優秀作品」(全五十四首)

【小学校の部】(十二首)

山形市立蔵王第二小学校
三年 松倉 和(まつくら のどか)
持久走やりたくないけどにげないぞ先生とギューやくそくしたよ

山形市立上山小学校

とびばこをパパのせなかでとつくんだパパのせながいたそうだなあ
二年 鈴木 星(すずき ひかり)
体育でマットうんどうかえるうち二回うてたよかえるになった
三年 山口 春(やまぐち はる)

山形市立南小学校

はつゆきでしんぴんブーツはいてみたぬれないようにそつとあるいた
一年 城戸口 永菜(きどぐち えま)
おちばまうグラウンドでサッカーするよボールをおいかけはっぱもはしる
三年 松田 煌大(まつだ こうた)
ひゅうひゅうと風になびいて柿のれんすきまにのぞく夕陽の振り子
五年 冨塚 登翔(とみつか とわ)
十二本ろうそく並ぶ誕生日春から中学私がんばれ
六年 鈴木 愛梨(すずき あいり)

宇都宮市立横川東小学校

バッシャーン初めてできたバタフライ心のメダル光りがやく
五年 堀江 歩里(ほりえ あゆり)

東洋英和女学院小学部

厩舎よりひらく戸の音馬の息飯をよこせと耳を後ろに
六年 高橋 凜花(たかはし りんか)

郡上市立大和小学校

あさがおがげん気にさいてきれいだよまるいおかおわたしといっしょ
一年 池田 結稀(いけだ ゆの)
オペレッタ会場響いたぼくたちの全力の歌ふわつと残る
五年 河合 琉伊(かわあい るい)

学校法人別府大学明星小学校

えとの馬きらきらひかるたてがみにわたしをのせてスタートするよ
三年 鈴木 杏(すずき あん)

【中学校の部】(二十首)

河北町立河北中学校

静寂に溶けて広がる靴の音黒く輝くピアノに向かつて
二年 茂木 乙葉(もき おとは)
はじっここの草むらの中隠れてた十六枚のクローバーたち
二年 森居 大翔(もりい ひろと)

鶴岡市立鶴岡第四中学校

真つ白と漆黒輝く鍵盤の上のせるは震える両手
二年 佐藤 瑠奈(さとう るな)

山形県立東桜学館中学校

県から都遠くの友へ送るライン三百キロが手のひらの上
二年 石原 龍王(いしはら りゅうおう)

山形県立致道館中学校

話すたび「幸せにの」と言う祖父の湿った声と蚊取り線香
二年 齋藤 晴(さいとう はる)

学習院女子中等科

年またぎ空気がピリツとなる不思議空も背すじが伸びたのだろうか
 一年 梅澤 愛乃 (うめざわ あいの)
 花火とはこの世で一番短命な花だと知って黙ってみてた
 一年 小泉 茉音 (こいずみ まお)
 「勝負あり」かわく唇かみしめる面を外せば湯気立ちのぼる
 一年 酒井 瑞花 (さかい みづか)
 お年玉たくさんあったはずなのに私の財布穴開いたみたい
 一年 谷口 奈優 (たにぐち なゆ)
 返信を待つ数分が長すぎて時計の針を指で押したい
 二年 住友 咲彩 (すみとも さや)

駒場東邦中学校

暴風の道端に咲くタンポポは翌日の朝まだそこにいた
 一年 大森 慎太郎 (おおもり しんたろう)

吉祥女子中学校

「どなた」って聞かれるたびに胸張って「あなたの孫」と言える幸せ
 二年 柳瀬 青葉 (やなせ あおば)

玉川学園中学部

風のなかひとひらゆれる木の葉にも小さな声がかくれているそう
 一年 葛 子澣 (かつ しせん)
 砂の海ドバイの陽ざしまぶしくてラクダの背から世界を知った
 一年 猿谷 理乃 (さるや りの)
 川下り声を重ねて漕ぎ進むバリの日差しにてらされながら
 一年 富田 典愛 (とみた のあ)

八王子市立甲ノ原中学校

あと一点あの日の涙思い出す二度と流さぬ決意を胸に
 二年 飯塚 智貴 (いづか ともき)

大阪教育大学附属天王寺中学校

綺麗という声に染まりてゆく空に君への想いそっと溶けだす
 三年 小川 瑞人 (おがわ みずと)

関西大学第一中学校

テスト中あの子の心をカンニング空白だけの解答题用紙
 三年 足達 一秋 (あだち かずあき)
 悩みなどある訳ないと笑ってた君のフルーツは愁いの響き
 三年 眞殿 紀羅良 (まどの きらら)

早稲田佐賀中学校

もう冬か毎朝食べるおにぎりの具材が変わり感じる冬至
 三年 宮寄 一華 (みやさき いちか)

【高等学校の部】(二十二首)

山形県立霞城学園高等学校(定時制課程)

朝バイト終えて学校急ぐ道貯金の数字だけがサプリメント
 一年 鈴木 司 (すずき つかさ)
 走り終え冷えた指先に焼芋の熱を分け合う夕暮れの道
 四年 齋藤 海 (さいとう かい)

山形県立上山明新館高等学校

霜柱踏めば秘密が割れる音言えない言葉朝に残して
 一年 伊藤 凜空 (いとう りく)
 チャイム鳴り同じ席へとかばん置く変わらない朝が少し安心
 一年 原谷 心美 (はらや ここみ)

山形県立山辺高等学校

ありがとう患者さんの一言でそっと包まれたまた歩き出す
 二年 沼尻 樹季 (ぬまじり いつき)

山形県立東桜学館高等学校

弓を引き弦の音響き空を裂く解き放たれる私の心
 一年 奥山 未唯 (おくやま みい)

冬の匂い不意にあなたを思い出す遠ざかる背中雪にかすんで
培養棚静かに並ぶ瓶たちは声はなくても確かに生きてる

山形県立新庄神室産業高等学校
一年 伊藤 安穂 (いとう あのん)
二年 長南 姫愛 (ちようなん きらら)

変わらないはずの景色も色づいていつかの僕も変わる気がした

山形県立荒砥高等学校
一年 石田 羚生 (いしだ れお)

進路欄空白のままノート閉じ消しゴムの角だけが丸くなる

山形県立酒田光陵高等学校
二年 星川 和凜 (ほしかわ あいり)

年越しはうどんを食べる祖父は言う「太く生きろ」としゃがれた声で
十八才企業研究始めたら製品一つも息をしていた
花火には小さく「注意書き」あつて君との恋にもあればよかった
しめ縄のわらを残した作業場に祖父だけ居ない冬の始まり

東京学館新潟高等学校
二年 小池 唯人 (こいけ ゆいと)
三年 五十嵐 紅葉 (いからし くれな)
三年 齋藤 綸乃 (さいとう りの)
三年 須田 啓介 (すだ けいすけ)

慶應義塾志木高等学校

イヤホンの充電切れた夕間暮れ信号の赤やけに長くて
夜更けまでスマホの光に照らされて本当の星を見逃している

二年 松田 聡佑 (まつだ そうすけ)
三年 大坪 新 (おおつば あらた)

星野高等学校

駅前で買う意味なんてないけれどここで売ってるコーラが好きだ

二年 酒井 真結子 (さかい まゆこ)

学習院女子高等科

オリオンの三つの星がボタンなら夜空を脱がせて春にしたいな

二年 田島 蒼子 (たじま ひろこ)

神奈川県立光陵高等学校

かくれんぼで忘れ去られた子のような電柱にかかる黄色い帽子
愛が欲しい 欲しい数だけ耳たぶに穴を開けてる、穴を開けてる

一年 石井 桃衣 (いしい ももさ)
三年 山本 未生 (やまもと みう)

星陵高等学校

あなたへの気持ちがずっと割り切れない君と僕では互いに素数

二年 荒谷 拓真 (あらや たくま)

神戸市立須磨翔風高等学校

帰り道名前を知らぬ花一つぼくより先に春を知ってた

一年 玉田 祐輝 (たまだ ゆうき)

令和七年度第二十三回斎藤茂吉ジュニア短歌コンクール入選作品(全二〇〇首)

■小学校の部(四十三首)

プールでねおよげるようになりましたプールのみずがうみみたいです
山寺はどんどん歩くぼうけんだ進んでいたらあせが出ていた
持久走やりたくないけどにげないぞ先生とギューやくそくしたよ

ばあばはねとくいなことがあるんだよはっぱにとまったトンボつかまえ
こまわしおうちでやつたらまわしてきたよ四かいうれしかったよ
九九れんしゅう七四二四と七のだんまちがえちやつて「ああつ。」てなるよ
とびばこをパパのせなかでとっくんだパパのせなかがいたそうだなあ
四のだん四七おぼえればこうかくだ四六のつぎが思いだせない
かがくかんかがみをさわるとすりぬけておくのががみに手があたったよ
図書かんで見られないところ見たんだようごく本だな本がたくさん
はくぶつかんはじめて見たよアメジストクジラのか石大きかったよ
体育でマッテうんどうかえるうち二回うてたよかえるになった

なわとびではじめてとんだ十かいだごうかくできてガッツポーズだ
はつゆきでしんびんブーツはいてみたぬれないようにそつとあるいた
おねえちゃんはつびよう会でソロパート一人でえんそうかつこいいな
おちばまうグラウンドでサッカーするよボールをおいかけはっぱもはしる
止めるんだどんなボールもいつだっておれはゴールのぶあついかわべだ
赤ちゃんのおててみたいなのみじだねひらひらりバイバイしてる
家庭科で初めてアイロン使ったようまくできたよエプロン作り
ひゅうひゅうと風になびいて柿のれんすきまにのぞく夕陽の振り子
十二本ろうそく並ぶ誕生日春から中学私がんばれ
スカイツリー上から見下ろす東京がどの建物も小さく見えた
おはようは自分のためと相手のため心をこめてあいさつしている

理科の時間トカゲにむちゅう晴駆君観察カード進んでないよ
横画にせつするたて画美しく習字で書いた「下」という字を
スーパリーのきかいすごいぞお肉がねしやぶしやぶみたいになって出てくる
にんじんでチーズガレットつくったよかりかりしててチーズとろとろ

妹のほっぺモチモチおもちかなおしようゆつけて食べちやいたいな
パッション初めてできたバタフライ心のメダル光りがやく
初めての金のシヤチホコ名古屋城住んでみたいな武将がいた街に

とみおか市合同ちようしゃにある古ふんてっぺんで見たらパパは小さい
厩舎よりひらく戸の音馬の息飯をよこせと耳を後ろに

あさがおがげん気にさいてきれいだよまるいおかおわたしといっしょ
さかなとりすいろでえびをみつけたよめだかもとっておうちでかうよ
さつまいもやつとほったよかたちはねいんせきみたいいぼこぼこだった
いもほりでいっばいほれたうれしなみみずみたいなほそながいのだ
生活でいもほりしたよみんなでね楽しい気もちみんなも同じ
おどりをねせいこうしたぞえいやーと手をのびしたよドキドキしたよ
オペレッタ会場響いたぼくたちの全力の歌ふわつと残る
オペレッタ東氏の願いつたえたぞ最後の歌がじんわり残る
着物着て真つ白な足袋足通し室町時代へタイムスリップ
舞台袖衣装整え出番まつ前髪とかし緊張ほぐす

えとの馬きらきらひかるたてがみにわたしをのせてスタートするよ

山形市立蔵王第二小学校

一年 押野湊燈 (おしの みなと)
三年 佐藤結芽 (さとう ゆめ)
三年 松倉和 (まつくら のどか)

上山市立上山小学校

一年 三瓶佳大 (さんぺい よしまさ)
一年 新寺祐仁 (にいでら ゆうと)
二年 齋藤一輝 (さいとう いちる)
二年 鈴木星 (すずき ひかり)
二年 長橋楽人 (ながはし かくと)
二年 二瓶奏斗 (にへい かなと)
二年 山口紗世 (やまぐち さよ)
二年 山口和輝 (やまだ かずき)
三年 山口春 (やまぐち はる)

上山市立南小学校

一年 榎津律季 (うめつ りつき)
一年 城戸口永茉 (きどぐち えま)
三年 齋野蓮那 (さいの はすな)
三年 松田煌大 (まつだ こうた)
四年 久光廉人 (ひさみつ れんと)
四年 山川二瑚 (やまかわ にこ)
五年 後藤桃花 (ごとう ももか)
五年 冨塚登翔 (とみつか とわ)
六年 鈴木愛梨 (すずき あいり)
六年 関綾乃 (せき あやの)
六年 松田琉聖 (まつだ りゅうせい)

上山市立宮川小学校

三年 浦山結衣 (うらやま ゆい)
三年 木村雪音 (きむら ゆきね)
三年 須田風香 (すだ ふうか)
四年 名和心愛 (なわ ここな)

天童市立寺津小学校

四年 名和心愛 (なわ ここな)

札幌市立しらかば台小学校

三年 小田春美 (おだ はるみ)

宇都宮市立横川東小学校

五年 堀江歩里 (ほりえ あゆり)
五年 三品遥大 (みしな そうた)

藤岡市立藤岡第一小学校

二年 竹村悠 (たけむら ゆう)

東洋英和女学院小学部

六年 高橋凜花 (たかはし りんか)

郡上市立大和小学校

一年 池田結稀 (いけだ ゆの)
一年 佐藤太樹 (さとう たいじゅ)
二年 栗田楓月 (くわだ ふづき)
二年 水野汐里 (みずの しおり)
二年 光藤いろか (みつふじ いろか)
二年 山本えみ (やまもと えみ)
五年 河合琉伊 (かわあい るい)
五年 森山旺亮 (もりやま おうすけ)
六年 荒井香乃 (あらい かの)
六年 古田千彩 (ふるた ちさ)

学校法人別府大学明星小学校

三年 鈴木杏 (すずき あん)

■中学校の部(七十三首)

じいちゃんのふたんへらすぞぼくがやるユニボとスノダンひざまでの雪

あけおめとただそれだけの言葉でも君からだから特別になる
年賀状機械みたいな文字まねて友達に送る最初の手紙

百円に今年をかけて運を引く神の返事は絶妙な吉

真夜中の雨だれの音に目を覚ます心揺さぶるショパンの調べ
静寂に溶けて広がる靴の音黒く輝くピアノに向かって
はじつこの草むらの中隠れてた十六枚のクローバーたち

放課後の教室残る人影と机の上のほのかな光

窓の外ふと眺めたら淡い雲息づくように流れほどけた

真っ白と漆黒輝く鍵盤の上のにせるは震える両手

秋の海静かに静かに夕日が沈み海が息する声が聞こえる
自転車で立ちこぎしつ帰る道青空の下風に吹かれて

県から都遠くの友へ送るライン三百キロが手のひらの上
黒板に残る数式見るふりで君の笑顔を覚えて帰る
ばらばらと校庭に降る冬の白足あとだけが今日を覚える

雪が降り街を真っ白に塗り替える昨日のミスもなかったことに

心から無敵になれるステージへ鳴らし続けるロックンロール
シート打つ放物線を描いてく点A通る式を打ちたい
常日頃数多の願い湧き出ても短冊前に筆は動かさず

切った髪たった数ミリでもわかる涼し気な君いつもの会話
話すたび「幸せにの」と言う祖父の湿った声と蚊取り線香
あと五分僕には解けぬ難問の吸取助ける酵素はなんだ
おはようと言葉をかわし席につくかけがえのないただの日常

久しぶりきらめく山車や屋台たち今日は私も花巻市民

吐く息の白きを見つめ駆けぬけるピッチを刻め雲外蒼天
年またぎ空気がピリツとなる不思議空も背すじが伸びたのだろうか
冬の朝わくわくしながら妹とまつしろなしもさくさくとふむ
花火とはこの世で一番短命な花だと知って黙ってみてた

「勝負あり」かわく唇かみしめる面を外せば湯気立ちのぼる
年賀状弱まってゆく祖父母の字伝わる愛は強まってゆく
お年玉たくさんあったはずなのに私の財布穴開いたみたい
冬の海きれいな貝を見つけたら波に返さず明日へ連れてく
絞り出す藍の絵の具の色濃さにはつと息のむ真冬の夜明け
馬の背にゆられて進む草原で風の冷たさ顔に感じる

幸せの象徴のようなおでんなべこんな日続けと大根をはむ
「緒行こ」その声一つで心浮き今日がほんのり明るくなった
返信を待つ数分が長すぎて時計の針を指で押したい
冬の道人影だけが伸びてゆく夕焼けだけがまだあたたかい
おみくじの結果をそつと折りたたみ神社の空を見上げて帰る

ゴーグルとメッシュキャップを何回もつけ直して立つ飛びこみ台
合宿中つかれた体にしみるのはおいしいご飯と大きな手まめ
暴風の道端に咲くタンポポは翌日の朝まだそこにいた
向日葵の枯れ行く姿ひしひしと身に染み感じる秋の深まり

山形市立第一中学校

二年 鈴木 湊来 (すずき みらい)

山形市立南中学校

一年 橋本月夏 (はしもと つきな)
一年 横尾育美 (よこお いくみ)

山形市立北中学校

二年 木村雪乃 (きむら ゆきの)

河北町立河北中学校

二年 牧野和心 (まきの なごみ)
二年 茂木乙葉 (もき おとは)
二年 森居大翔 (もりい ひろと)

南陽市立赤湯中学校

二年 池田唯冬 (いけだ ゆと)

長井市立長井南中学校

二年 菅 由希穂 (かん ゆきほ)

鶴岡市立鶴岡第四中学校

二年 菅 由希穂 (かん ゆきほ)
二年 佐藤 瑠奈 (さとう るな)

酒田市立第四中学校

二年 逢阪実央 (おおさか みお)
二年 幸田陸真 (こうた りくま)

山形県立東桜学館中学校

二年 石原龍王 (いしはら りゅうお)
二年 関 つばさ (せき つばさ)
二年 高橋羽珠 (たかはし はじゆ)
二年 松田純麗 (まつだ まよ)

山形県立致道館中学校

二年 阿部拓斗 (あべ たくと)
二年 池田紡 (いけだ つむぐ)
二年 榎木ひなた (えのき ひなた)
二年 上條麻理 (かみじょう まり)
二年 齋藤晴 (さいとう はる)
二年 森川遥登 (もりかわ はると)
二年 渡會 眺 (わたらい ひかり)

岩手県立一関第一高等学校附属中学校

二年 清水志織 (しみず しおり)

学習院女子中等科

一年 伊藤すず (いとう すず)
一年 梅澤愛乃 (うめざわ あいの)
一年 菊地楓 (きくち かえで)
一年 小泉茉音 (こいずみ まお)
一年 酒井瑞花 (さかい みづか)
一年 高村真衣 (たかむら まい)
一年 谷口奈優 (たにぐち なゆ)
一年 波光真奈 (はこう まな)
一年 藤澤志帆 (ふじさわ しほ)
一年 蒔田英華 (まきた えいか)
一年 川井春奈 (かわい はるな)
一年 小清水杏樹 (こしみず あんじゅ)
一年 住友咲彩 (すみとも さや)
一年 榊実結子 (ます みゆこ)
一年 矢部心優 (やべ みゆう)

駒場東邦中学校

一年 安實佑真 (あんじつ ゆうま)
一年 入谷峻太 (いりたに りょうた)
一年 大森慎太郎 (おおもり しんたろう)
一年 野木碧丹 (のぎ あおに)

もうすぐだ机にむかう弟を見守り思う去年の我を
寒い朝白い息はく朝練にかじかむ手でも前へとのぼす
雪舞いてケーブル越しの城白く錦帯橋に冬の息立つ
熊の子も食を求めて人里へ命からがら生きてるのかな

大浴場視線集まる日焼けあとシャワーで流せぬ努力の証
走り出す友の背中を追いかけて焦り届かず指一本
焼けた肌友と並んで笑い合う水球部だけの夏の勲章
「どなた」って聞かれるたびに胸張って「あなたの孫」と言える幸せ

風のなかひとひらゆれる木の葉にも小さな声がかくれている
夕焼けがポケットの中こぼれそう沈む気持ちもオレンジ色に
砂の海ドバイの陽ざしまぶしくてラクダの背から世界を知った
列車待つファンのレンズが光ってた静かな町にひびくシャッター
川下り声を重ねて漕ぎ進むバリの日差しにてらされながら
きつかったでもやりきったそのあとに少しだけつよくなれたきがした

あと一点あの日の涙思い出す二度と流さぬ決意を胸に
帰り道一本のびる夏の影明日は二本になったらいいな

八月のみんなで食べたスイカにはスイカ割りする父のおもかけ
夏休み墓参り後に話聞く寡黙な父の思い出話
願い風曲を聴くたびふと思う自分の居場所どこにあるのか
きみとゆく花火大会私には花火わきやく君こそ主役

綺麗という声に染まりてゆく空に君への想いそつと溶けだす
深き海触れればただのすりガラス嘘も真もともに溶けゆく

テスト中あの子の心をカンニング空白だらけの解答用紙
悩みなどある訳ないと笑ってた君のフルートは愁いの響き

秋風が僕らのへやに入り込むひんやり優しい夏の終止符

卒業式三年間の思い出が溢れ落ちぬようカバンを閉じる
ネイティブと笑い混じりの会話してウチナーグチの理解深める
水槽のジンベエザメを眺めつつ友と味わう紅芋ケーキ
平和への思いが眠る石の列祈りよのせてうちなーの風
もう冬か毎朝食べるおにぎりの具材が変わり感じる冬至

■高等学校の部(八十四首)

他愛のないふざけあう日々宝物秘密の内容ずつとこのまま
朝バイト終えて学校急ぐ道貯金の数字だけがサブリメント
走り終え冷えた指先に焼芋の熱を分け合う夕暮れの道

霜柱踏めば秘密が割れる音言えない言葉朝に残して
改札を駆け抜ける音追い越して制服のまま未来へ急ぐ
チャイム鳴り同じ席へとかばん置く変わらない朝が少し安心
ゴール見え限界感じて速度落ちまだやっていると呼吸しなおす

ふるさとよ便利なものなどないくせに育った緑が優しく包む
蔵王より雪降りしきる夜の道君と歩けば寒さ忘れて
ありがとう患者さんの一言でそつと包まれまた歩き出す
三年間経験染みた実習着油模様が世界地図かな
検定に向けて日々の桂むき積もり積もるよ大根の山

駒場東邦中学校

一年 本間 稔明 (ほんま としあき)
一年 前川 圭吾 (まえかわ けいご)
一年 萬場 雄哉 (まんば ゆうや)
一年 渡部 操太 (わたなべ そうた)

吉祥女子中学校

二年 相木 結名 (あいき ゆな)
二年 江原 愛莉 (えばら あいり)
二年 村瀬 結美 (むらせ ゆみ)
二年 柳瀬 青葉 (やなせ あおば)

玉川学園中学部

一年 葛子 渲 (かつ しせん)
一年 佐井 千咲子 (さい ちさこ)
一年 猿谷 理乃 (ざるや りの)
一年 高井 智司 (たかい さとし)
一年 富田 典愛 (とみた のあ)
一年 松井 宥磨 (まつい ゆうま)

八王子市立甲ノ原中学校

二年 飯塚 智貴 (いづか ともき)
二年 上川 実久 (かみかわ みく)

大阪市立平野北中学校

二年 新井 蒼大 (あらい そうた)
二年 中村 胤仁 (なかむら かずと)
二年 早川 月渚 (はやかわ るな)
二年 山畑 璃奈 (やまはた りな)

大阪教育大学附属天王寺中学校

三年 小川 瑞人 (おがわ みずと)
三年 角崎 綾愛 (かくざき あやめ)

関西大学第一中学校

三年 足達 一秋 (あだち かずあき)
三年 眞殿 紀羅良 (まどの きらら)

岩国市立玖珂中学校

二年 岡村 絢斗 (おかむら けんと)

早稲田佐賀中学校

三年 今井 絢理 (いまい あやり)
三年 牛尾 颯希 (うしお さつき)
三年 古瀬 梨恵 (こせ りえ)
三年 檜山 桜河 (ひやま おうか)
三年 宮寄 一華 (みやざき いちか)

山形県立霞城学園高等学校(定時制課程)

一年 佐藤 ここな (さとう ここな)
一年 鈴木 司 (すずき つかさ)
四年 齋藤 海 (さいとう かい)

山形県立上山明新館高等学校

一年 伊藤 凜空 (いとう りく)
一年 大沼 寧姫 (おおぬま ねね)
一年 原谷 心美 (はらや ここみ)
二年 齋藤 昴 (さいとう すばる)

山形県立山辺高等学校

一年 山寺 由芽 (やまでら ゆめ)
二年 五十嵐 穂香 (いがらし ほのか)
二年 沼尻 樹季 (ぬまじり いつき)
三年 日下部 丞志朗 (くさかべ じょうしろう)
三年 須貝 ふたば (すがい ふたば)

何気ない会話で祖母はよく笑うそのまま百まで笑ってほしい
弓を引き弦の音響き空を裂く解き放たれる私の心
高校で青春できると信じてた何も起こらずもうすぐ一年

冬の匂い不意にあなたを思い出す遠ざかる背中雪にかすんで
培養棚静かに並ぶ瓶たちは声はなくても確かに生きてる
マフラーをぐるぐる巻いて笑う君寒さより先に顔があつていよ
高校は友を作ると息巻くがいくら経っても変わらず独り

放課後の制服のまま遠回り大人なれないままの夕空
東北の大雪いつもつらいのに無邪気に遊ぶ子供の笑顔

変わらないはずの景色も色づいていつかの僕も変わる気がした

どうしようこのままいけば最終日課題とともにふり積もる雪
君と飲むばらばら弾くサイダーはあまらずばい私の青春

晴天の風花舞う空見上げてる私の恋もいつかは消える
進路欄空白のままノート閉じ消しゴムの角だけが丸くなる

修学旅行朝の検温三十八キヤリケースは玄関で泣く

部活後のバスの座席は二つだけ疲れみせずゆずるプライド
新年はカイロに代えて君の手とつなげるように祈る神社で
新津駅3番ホームに吐く息が白くなったら冬の始まり
小児科で子ども扱いたくないでとまだ甘えたい自分かかえて
雪の道父母から離れて歩くのは自立出来るか自問する為
初詣誰にも告げない願い事ふと吐く息が風に消えてく
介護用ベットの祖父の八畳の時計が刻む秒針の音

父さんに叱られた後もう一度冷めた布団で進路描く
年越しはうどんを食べる祖父は言う「太く生きる」としゃがれた声で
容量が不足しているスマホから削除して行く君の写真を
リフトからのぞく緑がグレンデの春近い事私に告げる

十八才企業研究始めたら製品一つも息をしていた
火花には小さく「注意書き」あつて君との恋にもあればよかった
しめ縄のわらを残した作業場に祖父だけ居ない冬の始まり
君の癖嫌だと本音を言えるまでカーソル一つ点滅したまま

雪の朝弟と並ぶ足跡が消えても残る冬の温もり

かきくけこずつと母音がついたままそろそろ自立し旅立たなければ
冬枯れの街に差し込む陽だまりは誰かの椅子を温めており
足音が母に似てきた妹の靴はまだ子ども明日はかけっこ
声援と舵手の鼓舞聞き艇飛ばすエンジンを積む人でありたい
やらねばと思うたびまた遠ざけて開く課題に凍りつく冬

トンネルで途切れる「L」手が余るふと目を閉じる理由も無しに
路地裏へ気が向く方に歩き出すガイドマップに載らない景色
SNSうまく生きてるふりの技一番盛れる角度探して
イヤホンの充電切れた夕間暮れ信号の赤やけに長くて

家の中階段登り踏み外す世界がズレる予兆もなしに
夜更けまでスマホの光に照らされて本当の星を見逃している
ちはやぶる神よ我が運上げ給え留年かかった最終試験で
あなたには3%のカメラでは伝えきれない今日の寒月
解きかけの数式残り春待つと教室の隅誰かの落書き

欲望がやっぱ抑えきれなくて黄色い線を越えて待ってる

山形県立谷地高等学校

二年 茨木 秀太 (いばらき しゅうた)

山形県立東桜学館高等学校

一年 奥山 未唯 (おくやま みい)

一年 小関 麗愛 (こせき れいあ)

山形県立新庄神室産業高等学校

一年 伊藤 安穩 (いとう あのん)

二年 長南 姫愛 (ちようなん きらら)

二年 沼澤 愛 (ぬまざわ めぐみ)

三年 高橋 司 (たかはし つかさ)

山形県立米沢鶴城高等学校

二年 高橋 陽音 (たかはし ひなり)

二年 長谷部 璃和 (はせべり と)

山形県立荒砥高等学校

一年 石田 羚生 (いしだ れお)

山形県立致道館高等学校

一年 五十嵐 遼 (いがらし りよう)

一年 齋藤 柚子 (さいとう ゆず)

山形県立酒田光陵高等学校

一年 今野 乙姫 (こんの いつき)

二年 星川 和凜 (ほしかわ あいり)

岩手県立盛岡第三高等学校

二年 貴志 ほのか (きし ほのか)

東京学館新潟高等学校

一年 伊部 太基 (いべ たいき)

一年 小熊 權仁 (おぐま かいと)

一年 宮内 友也 (みやうち ともや)

一年 山田 璃歩 (やまだ りほ)

一年 吉田 侑生 (よしだ ゆうせい)

二年 青木 大成 (あおき たいせい)

二年 遠藤 太郎 (えんどう たらう)

二年 川口 彩音 (かわぐち あやね)

二年 小池 唯人 (こいけ ゆいと)

二年 林田 和佳奈 (はやしだ わかな)

二年 本間 一葉 (ほんま ひとは)

三年 五十嵐 紅菜 (いからし くれな)

三年 齋藤 綸乃 (さいとう りの)

三年 須田 啓介 (すだ けいすけ)

三年 平松 花桜 (ひらまつ かの)

常総学院高等学校

二年 大山 葵依 (おおやま あおい)

慶應義塾志木高等学校

二年 牛山 悠希 (うしやま ゆうき)

二年 海老原 悠希 (えびはら ゆうき)

二年 岡本 憲真 (おかもと けんしん)

二年 菅家 雄太郎 (かんげ ゆうたろう)

二年 篠島 秀聡 (ささじま ひでとし)

二年 永岡 大知 (ながおか だいち)

二年 林 優人 (はやし ゆうと)

二年 藤野 珠羽 (ふじの しゅう)

二年 松田 聡佑 (まつだ そうすけ)

二年 森谷 有人 (もりたに ありと)

三年 大坪 新 (おおつば あらた)

三年 指田 悠希 (さしだ ゆうき)

三年 松本 幸祐 (まつもと こうすけ)

三年 森 晴己 (もり せいな)

星野高等学校

一年 黒木 萌那 (くろき もえな)

駅前で購入の意味なんてないけれどここで売ってるコーラが好きだ

星野高等学校

二年 酒井 真結子 (さかい まゆこ)

学習院女子高等科

冬の暮いつもの場所にピラ配り五枚目だけど受け取っておく
雪の日に白き食べ物かくれんぼ丸餅豆腐大根に蕪
もうひとつだけと眩き頬張ってまた手を伸ばす蜜柑中毒
東京に初雪降りて足止める見慣れた街もドラマチックに
夕暮れの駅降り見れば祖母の家灯りひとつのあたたかさかな
みんなとは一人別れて電車にてイヤホンを付け無音を埋める
オリオンの三つの星がボタンなら夜空を脱がせて春にしたいな

神奈川県立光陵高等学校

二年 遠藤 理乃 (えんどう りの)
二年 垣川 芽実子 (かきかわ めみこ)
二年 柏原 楓 (かしはら かえで)
二年 神山 うらら (かみやま うらら)
二年 佐々木 咲和 (ささき さわ)
二年 島崎 結菜 (しまざき ゆな)
二年 田島 蒼子 (たじま ひろこ)

神奈川県立光陵高等学校

かくれんぼで忘れ去られた子のような電柱にかかる黄色い帽子
ワイシャツの袖のボタンを留め直し言い訳みたいに今日を押し出す
君の影重なる瞬間逸らす目に写る花火で染まる空 ドン
授業ではAを貰った朽ちかけの粘土の鳥が空を見ている
愛が欲しい 欲しい数だけ耳たぶに穴を開けてる、穴を開けてる
あと一枚取れずに試合終わるけど終わらせないよ競技人生

横浜共立学園高等学校

一年 石井 桃衣 (いしい ももえ)
二年 古川 眞帆 (ふるかわ まほ)
三年 相模 奈緒 (さがみ なお)
三年 西村 祥太郎 (にしむら しょうたろう)
三年 山本 未生 (やまもと みう)

星陵高等学校

あなたへの気持ちはずっと割り切れない君と僕では互いに素数

二年 河井 円花 (かわい まどか)
二年 荒谷 拓真 (あらか たくま)

相山女学園高等学校

展示室静けさの中感じ取る同じ悲しみもうつくらない
川面には影を重ねてめがね橋秋の光にそっときらめく
葉かけからちらっと見えるあなたの顔ドキドキ隠せず笑顔で返す
冬日さす平和公園の祈りにも言えずに残るきみへの言葉
平和への祈り捧げし坂の街異国の風にカステラ甘し
秋風や遺品の影の揺れもなく言葉を持たぬ被爆の証
合格を言えば逃げそうで黙る手にひとつの願いそっと灯して

二年 石崎 杏奈 (いしざき あんな)
二年 大木 菜緒 (おおき なお)
二年 木下 真子 (きのした まこ)
二年 栗野 葵衣 (くりの あおい)
二年 小島 にこ (こじま にこ)
二年 鈴木 友 (すずき とも)
二年 鈴木 夢 (すずき ゆめ)

神戸市立須磨翔風高等学校

答案ににじんだ文字のくやしさを帰り道まで引きずっている
雪静か世界の息をひと包みきらめく白が音を消しゆく
帰り道名前を知らぬ花一つぼくより先に春を知ってた
給油口かすかな匂いに冬をみるゆきやこんことふと口ずさむ

一年 磯 元美宇 (いそもと みそら)
一年 井上 大地 (いのうえ だいち)
一年 玉田 祐輝 (たまだ ゆうき)
二年 小林 結依 (こばやし ゆい)

兵庫県立伊丹北高等学校